

保護者各位

富山市立芝園小学校

校長 杉林 千里

令和8年度 学校評価アンケート(前期)結果について

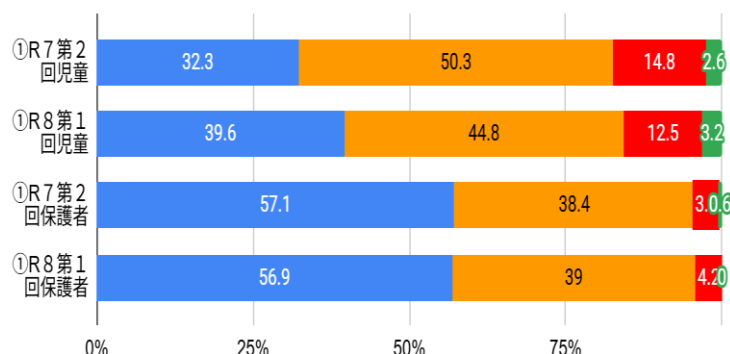
1学期末に児童と保護者のみなさんを対象に行いました学校評価アンケートの結果です。

アンケートの結果は「4 よくあてはまる」から「1 あてはまらない」までの4つの選択肢の割合を児童、保護者ごとにグラフに表してあります。(R7の第2回目の結果と比較しています)



< 1 明るく元気な子ども >

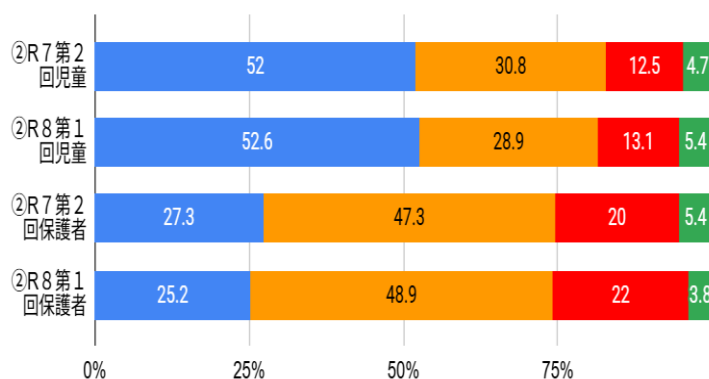
①子どもは、交通ルールなど、安全に気を付けて生活している。



肯定的な評価（「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計）が児童、保護者とも昨年度とほぼ同じ割合でした。児童の数値は、昨年に比べ「よくあてはまる」に伸びが見られます。このことから、安全に気を付けて生活するという意識が高まってきていることも見て取れます。しかしながら、自転車の乗り方に関するトラブル、横断歩道ではない場所での道路の横断についての危険もいくつか見られました。

学校では、その都度、具体的な場面を挙げ、自分の安全を自身で守ることができるように指導を継続しています。ご家庭でも引き続き、登下校時や放課後の安全指導をお願いします。

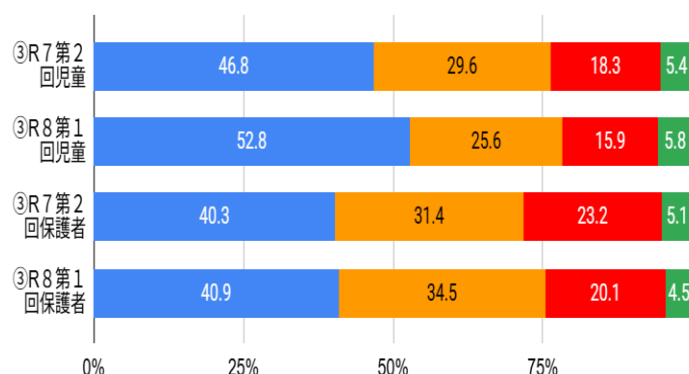
②子どもは、マナーを守り、好き嫌いせずに食べている。



こちらの評価も昨年とほぼ同じ割合となっております。児童は、マナーを守り、好き嫌いせずに給食を食べているという意識が高いです。

しかし、昨年同様、保護者から見ると、児童はマナーを守る、好き嫌いせずに食べていることに対して心配が大きいようです。食事のときのマナーや好き嫌がなくバランスよく食べるということを、学校と家庭の両方で指導を続けたいと思います。

③子どもは、進んで運動をしている。



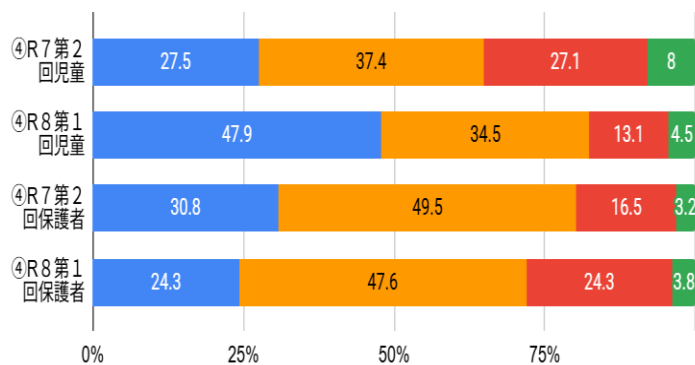
昨年度に比べ、進んで運動していると感じている児童、保護者の数値が高くなりました。昨年度の評価では、一昨年の評価から下回っていましたが、回復が見られました。

昨年度から朝のトレーニングがなくなりましたが、休み時間にパサージュで一輪車に乗ったりジェットボトルを活用した投げる運動をしたり、進んでグラウンドに出て運動したりする児童が増えました。また、昨年度に比べ、夏場の運動が制限された期間が少なかったことも影響していると考えられます。

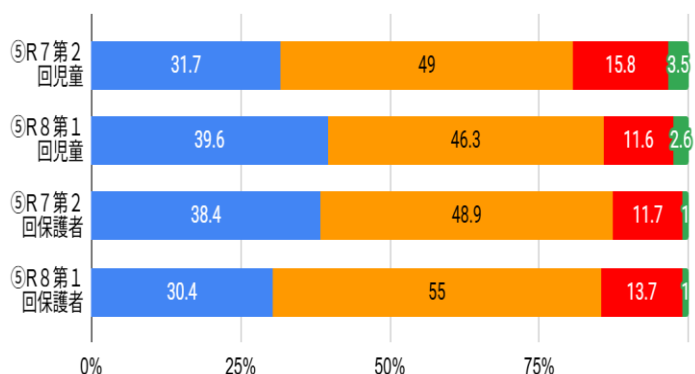
今後も健康な心と体をつくる取組を支えていきたいと思っています。

< 2 思いやりのある子ども >

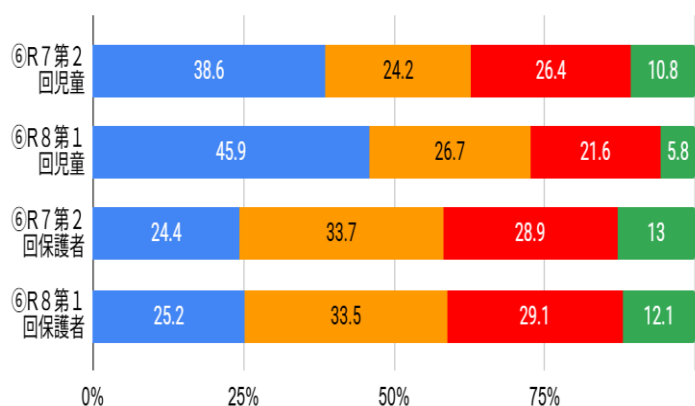
④子どもは、進んで挨拶をしたり、挨拶を返したりしている。



⑤子どもは、相手の気持ちを考えて行動している。



⑥子どもは、読書に意欲的に取り組み、様々なジャンルの本に親しんでいる。



昨年度の評価が低く、今年度は重点として取り組んでいる項目です。児童の評価は、昨年度に比べてかなり向上しましたが、保護者から見ると昨年から減少しており、感じ方に差が見られます。

学校では、今年度、計画委員会が進んで挨拶をしたり、挨拶を返したりすることができるような企画を取り入れて活動をしています。また、毎月自分の挨拶を振り返る場を設け、学校全体で挨拶の活性化を図っています。

今後もよい挨拶が気持ちよいということを実感できるように、地域、家庭と学校が連携して目標の達成を目指します。

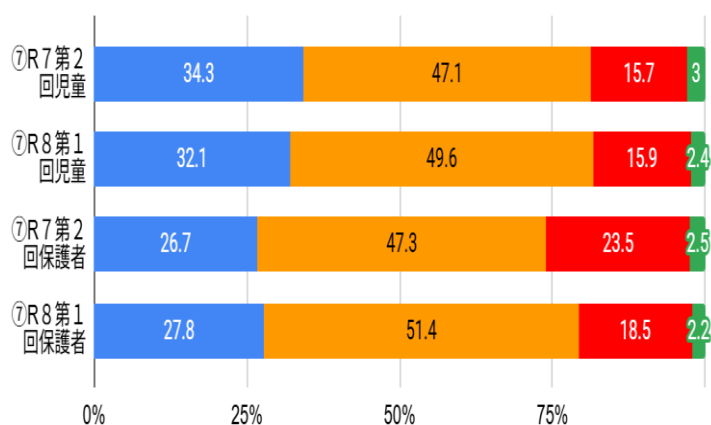
児童の肯定的な評価（「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計）は増えていますが、保護者の数値はやや減少しています。

集団生活の中では、トラブルは当然起こります。そんなとき、相手の気持ちを考えた行動について学ぶよいチャンスとなります。自分の言動を振り返ったり、相手の気持ちを考える指導を適宜、学年の発達段階に合わせて行っています。学校行事や縦割り班活動等、学校生活全般で相手の気持ちを考える機会を増やしていきます。

読書については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の数値が他の項目に比べ児童、保護者とも低いことが課題です。しかしながら、読書の楽しさを広げていけるよう、学校図書館司書や図書委員会の企画、図書ボランティアの協力もあり、児童の読書の意欲に高まりが見られます。今後も本への興味・関心を高めるとともに様々なジャンルの本に親しめるよう努めます。

< 3 楽しく学ぶ子ども >

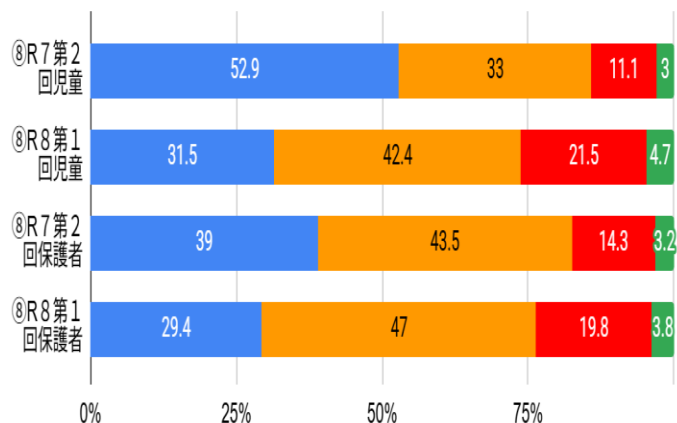
⑦子どもは、話を聴いたり、考えを伝えたりしながら、進んで学習に取り組んでいる。



本校では、問題解決的な学習と一人1台端末を活用した授業を進めています。その中で友達から自分の課題解決に必要な話を聴き、考えを伝え合いながら学びを深めています。昨年度よりも保護者の数値に高まりが見られました。

今後も子どもたちが、様々な教科の中で自ら学習課題をもち、課題を解決するために、自分の学習状況に合わせてペース、方法を計画して進めていくことを大事にしながら学習に取り組めるよう支援していきます。

⑧子どもは、学習に対して興味・関心をもっている（漢字・計算の練習への取組、自分が気になることや解決したいことを見付け調べるなど） R7：子どもは、漢字や計算の学習等に一生懸命に取り組んでいる。

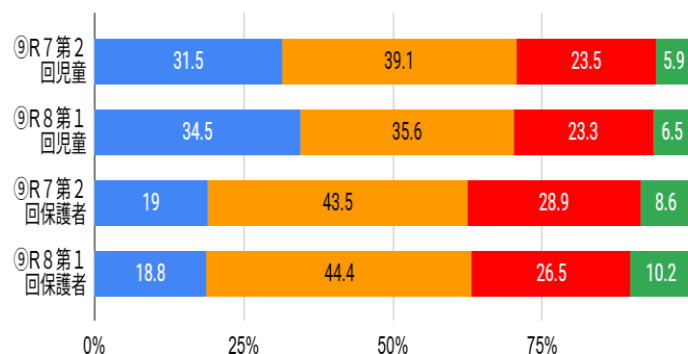


昨年度から質問を変更した項目になります。(R7：子どもは、漢字や計算の学習等に一生懸命に取り組んでいる。)

漢字や計算はもちろん、学習全般に対して興味をもって取り組んでいるかと質問の幅が広がったことが児童、保護者とも数値が減少した要因と考えられます。

授業の中では、学習課題を見付けたり、課題の解決に向けて楽しそうに学習したりしている姿が見られます。子ども自身が進んで学習していることを自覚できるように声かけや励ましを続けていきます。

⑨子どもは、家庭学習で自分で立てた計画（予定や時間）に沿って学習し、目当てを達成しようとしている。

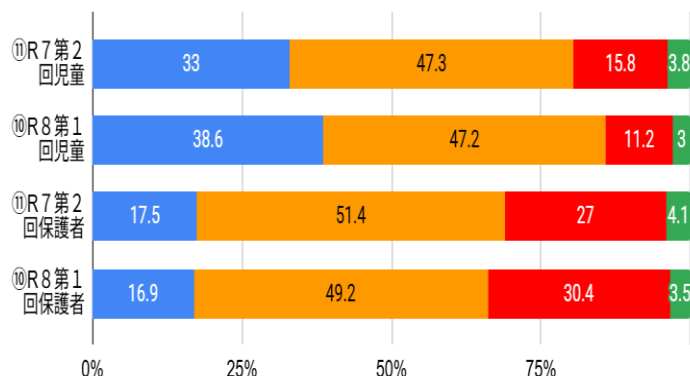


児童、保護者とも昨年度とほぼ同数値となっております。学期末の「学習のたしかめ」の前に、範囲や内容を伝え、一人一人が自分で計画を立てて、家庭学習に取り組めるよう支援しました。

しかしながら、まだ児童の評価では3割、保護者の評価では約4割が家庭学習への取組について課題を感じていることから、今後も計画的・意欲的に家庭学習に取り組むことが習慣化できるよう、一人一人の生活スタイルに合わせた助言を行っています。

< 4 芝園の子ども「芝園プライド」をめざして >

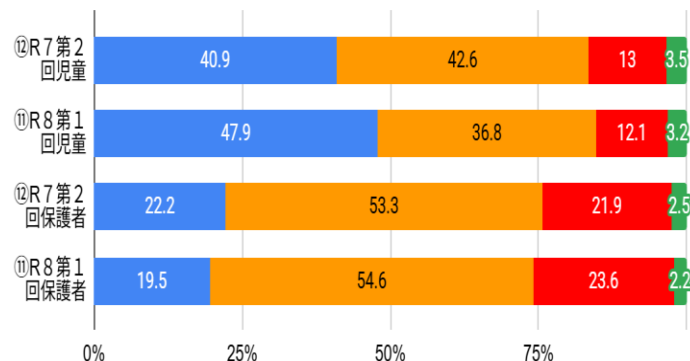
⑩子どもは、失敗しても、人のせいにならず、自分自身を見つめることができる。



中学校との連携を意識し、「芝園プライド」と関連させ設けた項目が⑩～⑫です。

児童の肯定的な評価（「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計）は、増加しています。保護者はやや減少していますが、失敗やつまずきに対して児童は、自分自身を見つめるという意識が高くなっています。今後も自分の行動を見つめ、さらに改善策を自ら考え行動することで成長に生かせるよう支援していきます。

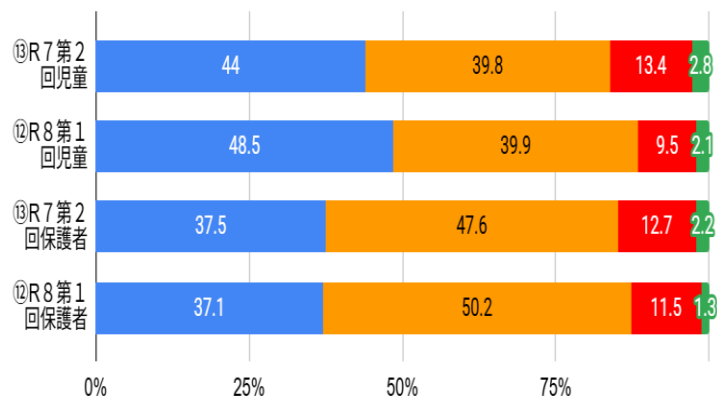
⑪子どもは、失敗しても、やり方を変え、再度チャレンジできる。



⑪と関連する項目で、肯定的な評価（「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計）が昨年度とほぼ同じ割合でした。

学習面、生活面等においてに失敗しても、それを受け止め、別のやり方で挑戦する力を付けていくことができるように指導していきます。ご家庭でも、失敗は成功のステップと捉え、成長を励ましていただければと思います。

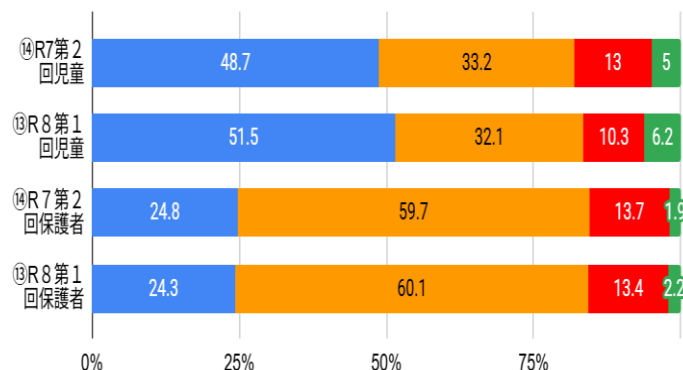
⑫子どもは、みんなのために何かしようとする。



児童、保護者とも評価が高く、かつ昨年度より数値に上昇が見られました。自分のためだけでなく、みんなのために貢献しようという思いは、学校、家庭の両面で発揮するチャンスがあります。

学校では学級における役割、縦割り班における役割を担う実践だけでなく、困っている仲間や下級生を助けるために自分ができることを探し実行する姿も見られます。他者との関わりを大事にする芝園っ子を家庭、地域、学校で見守っていききたいと思います。

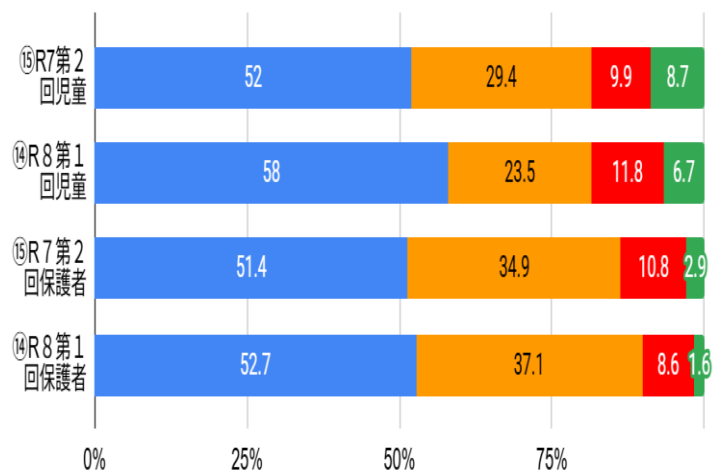
⑬子どもは、自分のよさが分かっている。



児童と保護者とも昨年度とほぼ同じ割合で高くなっています。

自分のよさを学校生活の様々な場面で自覚できるよう、一人一人が学習や学校行事等に取り組む過程の中で見せたがんばりを認め、自信につながるようにしています。学校、家庭で小さな成功やできるようになったこと等を褒め、児童の自己有用感につながるよう支援していききたいと思います。

⑭子どもは、学校へ行くのが楽しそうである。



昨年度は保護者よりも子どもの数値に落ち込みが見られましたが、今年度は、子どもはほぼ同数値で、保護者の肯定的な意見が高まっています。

より多くの子どもが学校生活が楽しいと思えるように学習はもちろん、学校生活全般が充実するように一人一人と心を寄せて接していく必要があると考えています。学校生活の中で学習、学校行事、友達との関わりに充実感や達成感を味わい、成長を実感できるように集団での学びの充実をめざしていきたいと思います。